

医薬品の通信販売について

平成21年2月24日

慶應義塾大学総合政策学部
國領二郎

主要論点

1. 移動困難は高齢過疎少子日本の共通大問題

病人を走りまわらせるのではなく、サービスを届けたい

2. 真の安全対策を

対面か通販かという形式は本質ではなく、「伝えるべきことを伝え」「確認すべきことを確認し」「応えるべきことに応える」のが基本。ネットの方が、より確実に情報提供(説明読むまで発注できないなど)したり、大量購入の確認をしたりしやすい面もある

3. 規制はかえって危険

規制でつぶれるのは、健全な業者。購入の道を失った患者が危険な個人輸入などに頼る可能性大。規制は国内法に従わない事業者を繁盛させるだけで、危険を増大させる

4. 国際的視野で考えたい

処方薬なども含め、通信販売の発達は世界のすう勢。対応が遅れると後にノウハウをためた海外販売事業者に席卷される。逆に日本の優れた薬をアジアなどに積極的に通信販売していく姿が見たい

論点1:「移動困難」は薬だけではなく、 高齢過疎少子ニッポンの共通大問題

- 過疎→ 薬店がない、遠い(へき地、離島)
- 高齢→ 運転不適の高齢者の激増(地方都市でも)
- 少子→ 負荷が集中する就労ママ(大都会でも)

参考:「一般用医薬品の通信販売継続及び安全な販売環境の整備を求める緊急会議」模様

提案:パブコメにも多く寄せられているはず。お招きして声を聞いては？

論点2: 真の安全対策を

- より本質的な

「患者に伝えるべきことが伝わっているか？」

「患者に確認するべきことを確認しているか？」

「質問や苦情対応体制が整っているか？」

などで、判断したい

- 対面 vs 通販 というのは本質ではない

論点3:規制は危険！！

- 強いニーズがある中で、健全な通信販売事業者をつぶすと、危険な違法・脱法業者や個人輸入(海外サイト)ばかりがはやる
- 健全な事業者が悪質業者を見張るようにしたい
- 街の安全のためには商店街が賑わっていることが有効なのと同じ。さびれるといかがわしい店の街になる

論点4：日本の医薬品業界の国際競争力

- 世界的には処方薬も含めてネット利用が進展している。鎖国を続けられるとは思えない。対応が遅れると、販売ノウハウ（アマゾンのような情報集積を利用）をためた海外販売事業者に席卷される。
- 世界の販売データを握った国が開発でも優位にたつ
- 日本の安全な食品などが海外で健闘している。医薬でも海外市場をネットで積極的に開拓してほしい